

科目名称 (Course Title)				担当教員(Instructor)	
中小企業論				佐藤 充	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修・聴講
授業の概要 (Course Description)					
<p>中小企業は、日本経済を支える基盤であるとともに、地域経済を牽引するものである。我が国では、大企業の下請企業や地域商業の小売・サービス店だけではなく、高度な技術力や独創的なビジネスモデルを有する革新的中小企業が事業活動を展開している。さらに、新たな産業の担い手として、スタートアップ企業への期待も高まっているのである。</p> <p>本講義は、中小企業概念や仕組みを学習するとともに、中小企業の実態や経営課題について、具体的なデータや事例を通して理解することを目的とする。あわせて、地域経済における中小企業の役割や問題点を議論・検討するものである。</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
<p>① 日本経済における中小企業の役割を理解し、中小企業を取り巻く経済環境や中小企業の経営について説明することができるようになる。</p> <p>② 中小企業が抱える諸問題を把握し、具体的な根拠に基づき、今後の在り方に関する展望や構想を提示することができるようになる。</p>					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	イントロダクション 日本経済と中小企業				
第 2 回	中小企業とは				
第 3 回	日本における中小企業の変遷				
第 4 回	大企業と中小企業				
第 5 回	下請システムと中小企業				
第 6 回	グローバル化と中小企業				
第 7 回	中小企業の事業承継				
第 8 回	中小企業の研究開発活動とイノベーション				
第 9 回	スタートアップ企業の経営と支援				
第 10 回	中小企業と地域経済				
第 11 回	中小企業のネットワーク化				
第 12 回	情報化と中小企業				
第 13 回	中小企業の資金調達				
第 14 回	中小企業政策の展開				
第 15 回	全体のまとめ				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
<p>① 各講義の最後に、次回までの小課題と予習の範囲を指示する。</p> <p>② 講義前には、小課題に取り組むとともに、教科書の指定された範囲を読むこと。</p> <p>③ 講義後は、配布資料とノートを読んで復習すること。</p> <p>④ ニュースや新聞記事等に目を通し、中小企業に関する時事問題について、自らの意見を考えること。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法	評価基準
期末試験 (60%) 小課題 (30%) 講義での発言 (10%)	秀：概念やフレームワークを適切に用いて、事象の問題点を、論理的かつ客観的に説明でき、すぐれた解決策を提示できる。 優：概念やフレームワークを適切に用いて、事象の問題点を、論理的かつ客観的に説明でき、解決策を提示できる。 良：概念やフレームワークを用いて、事象の問題点についておおよその説明ができ、一応の解決策を提示できる。 可：概念やフレームワークを理解し、事象の問題点について最低限の説明ができる。 不可：概念やフレームワークを用いて、事象の問題点を説明できていない。
テキスト (Textbook)	【書名】 中小企業・ベンチャー企業論【新版】 【著者】 植田浩史ほか 【出版社】 有斐閣コンパクト 【出版年】 2014年
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	各講義のなかで、適宜、参考文献を提示する。
備考 (Other Information)	講義に3分の2以上出席しなければ定期試験は受験できません。講義中は、できるだけ、積極的な発言を求めます。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	配布するレジユメに記載された連絡先に連絡すること。